

● 求められる環境啓発の取り組み・検討の経緯

地球温暖化を背景とした啓発の取り組み

【背景】気温の上昇、気候の変化、生態系、水資源、食糧、健康などへの深刻な影響

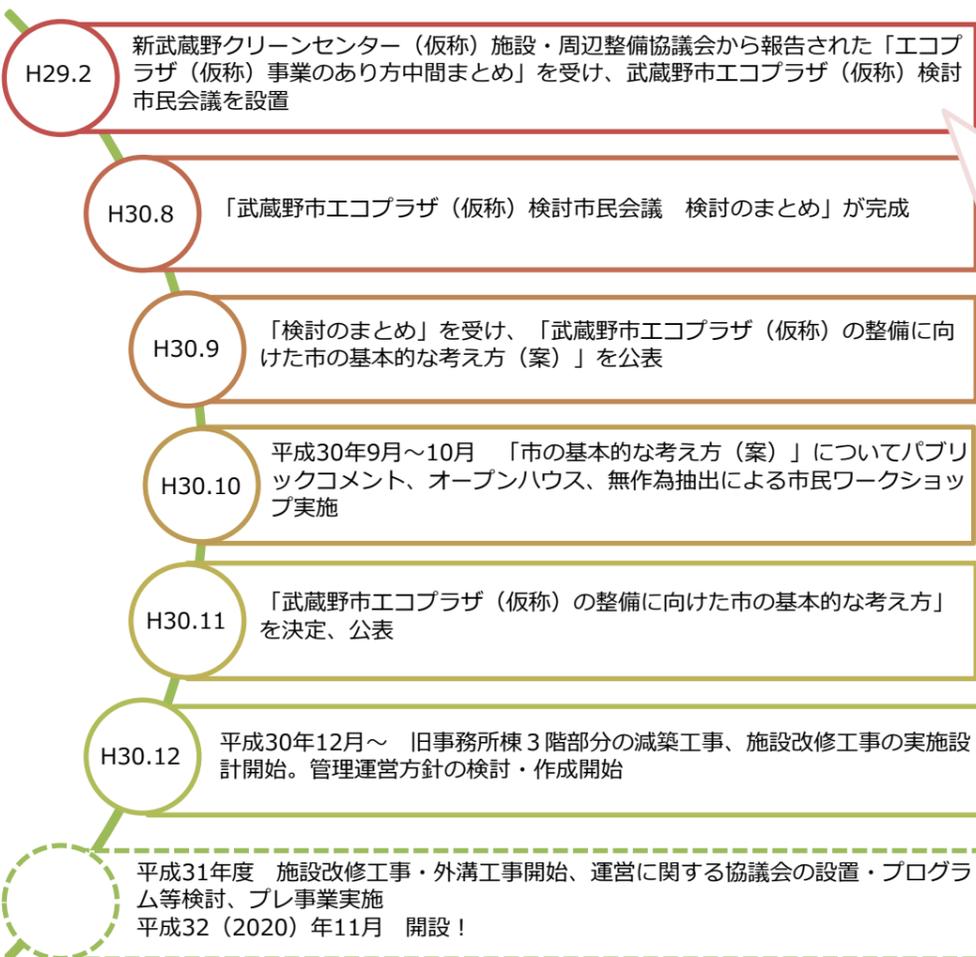
→ 二酸化炭素削減のため、市民一人ひとりに環境に配慮した行動を促す必要性があります。

エコプラザ（仮称）から啓発する意義

【背景】ごみの区内処理に向けた、近隣住民との度重なる意見交換・市民参加の議論を経た、新・旧クリーンセンターの稼働

→ 旧クリーンセンターの施設を通して、市民にごみ処理への理解を求める意義があります。

● 検討の経緯と今後のスケジュール



平成22年2月に設置した新武蔵野クリーンセンター（仮称）施設・周辺整備協議会は、現在は第四期です。学識経験者や周辺地域の方、関係市民団体の代表者などで構成され、新クリーンセンターの機能や周辺のまちづくりなどについて、様々な議論を重ねています。

*SDGs（Sustainable Development Goals）とは…持続可能な開発目標のこと。平成27年9月の国連サミットで採択された。貧困や不平等、格差、気候変動など、様々な問題を根本的に解決し、世界中のすべての人が将来にわたってより良い生活を送ることができるようにするための、世界共通の17の目標のこと。



今後、様々なイベントの機会に エコプラザ（仮称）ブースを設ける予定です。ご不明な点はどうぞお声かけください！

エコプラザ（仮称） ニュースレター

平成31（2019）年1月発行
発行：武蔵野市エコプラザ（仮称）検討市民会議 資料2
事務局：武蔵野市環境部環境政策課
電話：0422-60-1841（直通）

Vol.2

武蔵野市では、環境啓発施設エコプラザ（仮称）の2020年11月開設を目指し、検討を進めています。

「武蔵野エコプラザ（仮称）の整備に向けた市の基本的な考え方」が決定しました。

平成30年9月に公表した「武蔵野市エコプラザ（仮称）の整備に向けた市の基本的な考え方（案）」に対する市民のみなさまからのご意見を伺いながら必要な修正を行い、このたび、市の基本的な考え方が決定しました。

● エコプラザ（仮称）が目指すもの

日々の暮らしの気づきを環境に配慮した行動に結びつけ、個々の取り組みをつなげて地域ぐるみの取り組みへと広がります。より良いまちづくりを目指すことで、SDGsの達成に貢献します。

SDGs*の達成に貢献

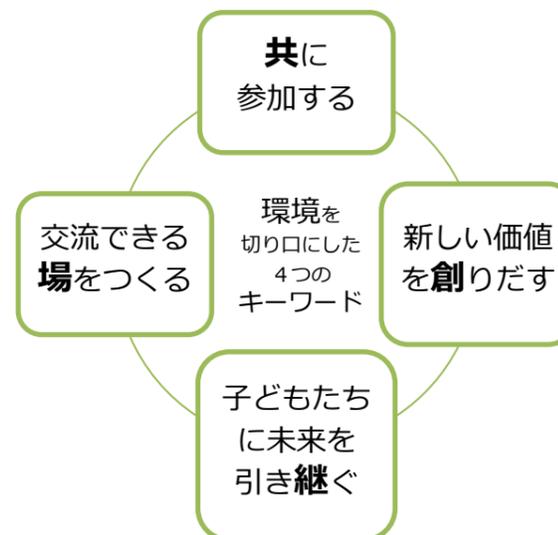
一人ひとりの行動をつなぎ、地域ぐるみの取り組みへと広げる

地域の取り組みを武蔵野市全域へと拡大し、より良いまちづくりを目指す

*SDGsについては最後のページに説明があります。

● コンセプト

みんなでつくろう！
子どもたちに未来をつなぐ
エコプラザ



多様な環境に関する啓発

●ごみ、資源、エネルギー、緑、水循環、生物多様性など多様な環境問題が、日々の生活につながっていることを知ってもらい、行動に結び付けられるよう働きかけます。

市民参加・市民提案

●武蔵野市に関係のある人（在住・在勤など）・団体などと一緒に環境について考え、企画し、新しいいろいろな取り組みに広がります。

市民団体・事業者・市など異なる主体の連携

●いろいろな人・団体などが、それぞれの強みや知識を持ち寄って、同じ目的を目指して、環境課題の解決に取り組むよう、つながりを促します。

進化しながら磨く

●常に完成形としないで、時代や価値観、ニーズの変化などに対応しながら、人も施設も学び合い、新しい価値を創り続けます。

クリーンセンターの歴史の継承と連携

●エコプラザ（仮称）の原点は市のごみ問題にあります。新旧クリーンセンター建設の歴史や議論・成果・関わった方々の思いなどを次代に引き継ぎます。

●機能と空間利用

- 旧クリーンセンター事務所棟とプラットホームをリノベーション（改修）します。
旧プラットホームの特徴である大空間を生かすため間仕切壁等で仕切らず、雰囲気を残すため大きく内部改装は行いません。
- 多様な環境啓発と環境に関するネットワークの拠点とします。
- 誰でも利用することができます。
市民をはじめ、様々な人やNPO、民間事業者など、誰でも利用できます。施設に来なくても情報が得られたり、出張型の取り組みに参加することもできます。
- クリーンセンターごみ発電による電力供給を受けるとあわせて、太陽光発電システム、LED照明、蓄電池の設置、省エネ空調を導入します。
- 災害時には旧プラットホームを緊急物資置き場やボランティア等の休憩場として活用するほか、災害井戸を設置し水を確保します。

知る

- 科学的知見や社会動向なども含めた、環境に関係するいろいろな情報を集め、体系的に発信します。

①情報の一元化・体系化 ②アーカイブ化 ③情報伝達のノウハウ

学ぶ ・学び合う

- 持続可能な社会に何が大切なのか理解してもらえるような展示、参加したくなるイベント、体感し探究できるプログラムを展開します。

①展示 ②参加・体験・体感 ③行動・活動・探究・創造 ④ESD

はぐくむ ・育てる

- 小さなころから環境に親しみ、小さな関心を大きくはぐくめるよう、気軽に来られる場を提供します。
- 環境に関する活動の立ち上げや継続に必要な知識やノウハウを提供します。

①環境への興味・関心をはぐくむ ②活動を育てる

つなぐ

- 環境を切り口に、分野を超えて、様々な人と人・活動と活動が出会い、新たなつながりが得られるような仕掛けをつくります。
- 世代間交流の機会をつくります。

①環境分野をつなぐ ②人と人をつなぐ ③世代をつなぐ

支える

- 環境に関する「なぜ」を受け止め、助言したり、活動につなげたりします。
- 環境活動に取り組む際の課題を解決するために支援します。

①相談 ②支援

●連携、協力

多様な主体との 連携、協力

- 市民や市民団体、民間事業者など多様な主体と接点を持ちながら、環境問題を一緒に考えられるよう、総合的なネットワークを構築します。
- 様々な施設や場所を活用した、出張型事業に取り組みます。
- 他自治体とも連携し、幅広い取り組みを行います。

市の環境啓発事業の 整理、再編

- 市の事業について、目的を明確にして効果測定を行います。
- より効率的、効果的な事業へと再編を進めます。

市の環境啓発事業 との連携、協力

- 市民団体や民間事業者が環境啓発の担い手、主体として活躍できる機会を提供し、その活動を支援します。

環境を切り口とした 他分野事業との連携

- 子ども、文化、教育、福祉、生涯学習などの市の他の分野の事業や、財政援助出資団体の事業と、より効果の高い連携の取り組みを進めます。

●武蔵野クリーンセンター配置図

